

1 研究主題と主題設定の理由

研究主題

自分の考えをもち，相手に分かりやすく表現できる子をめざして

「書く」活動を中心に -

主題設定の理由

本校では，昨年度まで，研究主題を「自分の思いや考えを表現できる子をめざして—ことばを大切に
にした国語科の学習」として取り組んできた。それによって話す力・書く力への手立てが徐々に明
らかになり，話す力・書く力は，少しずつついてきた。今年度は，表現する力を「分かりやすく」と
し，論理的な表現力をつける方策をより具体的に探り，子どもたちの表現する力を確かなものにして
いきたい。また，それらの力を「書くこと」を軸にしてつけていきたいと考え，副題を - 「書く」活
動を中心に - とした。

(1) なぜ「分かりやすく表現する力」なのか

本校の児童には，相手や目的を意識して分かりやすく話したり書いたりする力がまだ十分には育っ
ていない。自分の思いや考えをもつことや話したり書いたりすることに自信のない児童も見られる。

今回の教育課程改善の中心課題として，「表現力・思考力・判断力」が挙げられている。それらは，
日々変化する情報や複雑な現象を冷静に分析し判断して主体的に生きる力である。私たちは，「表現
力・思考力・判断力」の「表現力」，中でも論理的表現力を高めていくことが必要であると考えた。

(2) なぜ『「書く」活動』なのか

「分かりやすく表現する」には，「論理的に表現する」ことが大切である。

大辞林によれば，「論理とは，「考えや議論などを進めていく筋道。思考や論証の組み立て。」とされて
いる。つまり，「筋道，組み立て」の明確さ如何が「分かりやすさ」を左右するのである。「論理的な
表現力」とは，何かを話したり書いたりする際に，「なぜそう思ったのか，筋道や内容の組み立てを明
らかにして相手に伝えること」と捉えることができる。ところで，国語の学習指導要領「書くこと」
の目標には，この「筋道，組み立て」と類義の語彙が示されている。

- ・ 経験したことや想像したことなどについて順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書く能力
(低学年)
- ・ 相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などに注意して文章を書く能
力(中学年)
- ・ 目的や意図に応じ，考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力(高学年)

低学年，中学年，高学年それぞれの発達段階に応じてレベルは上昇するが，下線部はすべて，「筋道，
組み立て」のことである。したがって，「書くこと」の目標を達成することによって，「論理的に表す
る」こと，ひいては，「分かりやすく表現する」ことができるようになると考えられるのである。

(3) どのように取り組むのか

「書くこと」の目標を達成するべく、さまざまな言語活動を行っていく。ここで、「活動」とは、「はたらき動くこと。いきいきと行動すること。(広辞苑)」であることを押さえたい。いきいきと行動するには、目的がなければならない。そこで、「書くこと」における言語活動には必ず目的を設定し、児童が自ら能動的にその目的に向かって書くような設定及び手立てを講じる。またそのような活動を児童が、教室の級友たちとともにやっていく際、互いに関わり合う場としての授業空間の重要性を常に意識する。これらの手立てによって、児童は、主体的に周囲と交流しながら「書く活動」を行い、「分かりやすく表現する力」をつけていくことができるはずである。

論理的に表現する力について、愛知教育大学院教授 佐藤洋一氏は、「複雑な現代社会を生き抜く要素であり、自分を育て、他者・異文化を理解することだ」と述べている。(『国語教育』2010年・12月号) 21世紀を生きていく本校の児童に「論理的な表現力」を育てていくことは、自分を活かし、他者を理解しながら主体的に生きぬく力につながるであろう。

2 めざす具体的な児童の姿

低学年	相手意識を持って、身近なことや経験したことを順序立てて進んで話せる。自分の思いや考えが明確になるように順序に沿って書くことができる。
中学年	相手意識・目的意識を持って、理由や事例などを挙げながら筋道立てて書いたり話したりできる。
高学年	目的や意図に応じて事柄が明確に伝わるように、構成を工夫しながら話したり書いたりできる。 友達の話の意図を考慮しながら、自分の思いや考えと友達の思いや考えを比べ、主体的に交流し合える。

3 昨年度の課題

「書くこと」において次のような課題が挙げられた。

1. 思考力や表現力の育成のためには、言語活動を意識した単元構成の工夫が必要。
2. 視点を明確にした「振り返り」を大切にし、学びの自覚化を図ることが必要。
3. 系統性やつきたい力をより明確にし、生活や他教科に生きる力にしていく。
4. 研究授業の視点をしぼり、繰り返しや積み重ねによる授業力の向上をめざす。

これらの課題を今年度の研究の内容に組み込んでいく。

4 研究の重点

(1) 「分かりやすく書く力を育む授業づくり」

「分かりやすく書く力を育む授業づくり」により、自分の思いや考えを分かりやすく表現し、伝え合うことを通して自己評価力を高め、内面を豊かにする。

(2) 「表現を支える基盤づくり」

「表現を支える基盤づくり」により、分かりやすく表現するための基礎的・基本的な知識や態度を身につけることができるようにする。

5 研究の内容

(1)「分かりやすく書く力を育む授業づくり」

言語活動の工夫（視点）

主体的・能動的に取り組める言語活動であるか，系統的・段階的な言語活動であるか，（「書くこと」系統表（資料）・木場っ子の基礎・基本（資料）参照）子どもにとって満足感・達成感が得られる言語活動であるか等を吟味し，言語活動を意識した単元構成の工夫を図る。（他教科等との関連も意識する。）

「分かりやすく表現する力」の明確化（視点）

単元のねらいに応じて「分かりやすく表現する力」を具体化し，指導と評価の一体化に努める。

分かりやすく表現するための手立ての具体化（視点）

各指導事項における手立てを具体化し，焦点化して授業を行う。

ア．ゴールの明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体のゴールを，授業のねらい（目標）との関係から，明確にする。 ・目的意識・相手意識を持たせる。 ・単元全体を通しての見通しを持たせる。 ・他の学習，生活に生かす視点を持たせる。
イ．思いや考えを持たせる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを書かせる。（マッピング・ワークシート等の工夫） ・発問の工夫 ・物事を多様な観点から考察することを教える。 ・よいモデルに出合わせる。
ウ．構成・記述・推敲	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の工夫 <ul style="list-style-type: none"> 何を学習し，何が大切か分かり，次の書く活動に生かせる板書。 板書とノートやワークシートとの関係が分かる板書。 学習内容の整理，学び方モデルを示す板書。 ・ワークシートの工夫 <ul style="list-style-type: none"> 学習内容のまとめや記録（教材内容の読解，ポイント理解） 論理的な構成で組み立てる方法の提示 ポイントを示し，無理なく記述につながるワークシート ・推敲する力をつける場や機会の設定 <ul style="list-style-type: none"> 推敲の観点を提示
エ．交流	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な目的意識・相手意識を持った発表の仕方 ・交流や学び合いのためのワークシート（聞く時のポイント）
オ．振り返り	<p>4つのポイント（段階的に）で自己評価力を育てる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習内容の理解度（キーワードを使って） 2 新たな課題や疑問に気付く（課題解決能力へ） 3 友だちの良さの発見（だれのどういう意見がよかったか，活かせる点） 4 他教科や生活に生かす（これから考えたいこと，行動したいこと） <p><振り返りのポイントを全クラスで掲示する。></p>

